



「集落で隔離されて
世間知らずで生きてきた私を
騙しているんじゃ
あるまいな?」

「テタラメだつたら
今すぐ※すぞ?」



『貴様から赤球を採取するには、
この肉桿を愛さなくてはならないと?』

『...妖魔を狩つたほうが
早いんじやないのか?』



『おい、まだ赤球は出ないのか?
何? いいからが本番?』

『せっつきかり適当
面つてるんじゃあるまいなへ』



「本當ですか かぐら様…」

『…おい貴様、
このまま赤球採取の
準備を続けろ…』

「ホントだ…奈落！
この棒から出てる汁、赤球の味に
ちょっと似てる…」



『この奈美、
必ずや赤球を採取ひ...
し...!』

『待ついていたさじ
かぐら様つ...!』
『...!』





『お…♡ お…♡
ばかもの』

『私のナ力に赤球を
吐き出したって何にも…』

『ひり出して
かぐら様に
食べさせろって…
それで効果が
あるんだろうな？』

「奈楽う…
だいじょうぶ？」





「奈楽のオナカに入つてた赤球、
つき舐めたのより甘いよ?」

『か、かぐら様…
お味の感想など
仰りないで結構です…』

『…
感謝するぞ貴様…』



発行日 2014/8/17

発行 ぼてとさらだ
hi_mekuri@hotmail.co.jp

※18才未満の購読の禁止
※ネット上への無断転載の禁止